

01 実施概要

01 実施概要 | 地域おこし協力隊員実施業務

以下業務を隊員にて推進（必要に応じた隊員の募集・採用を実施）。各成果指標の達成を通過点として、地域と協力隊員の特性を踏まえブラッシュアップを繰り返しながら活動を推進していく。

■ 各隊員の業務概要

関係人口創出・移住定住促進	● 移住・定住推進施策の企画・遂行 ● 移住希望者からの相談対応業務 ● 移住・定住に伴う各種支援 ● 情報発信業務（ポータルサイト・SNS等を活用した情報発信）
空き家問題の解決に取り組む 地域の体制整備と強化	● 移住・定住促進に紐づく空き家活用施策の遂行 ● 空き家に関する相談対応・データ整理業務 ● 空き家解決を担う体制の構築 ● 空き家所有者と利活用者のマッチング ● 情報発信業務
地域資源の発見・開拓・活用による 地域商材の開発と販路開拓	● 地域資源の発掘・商材化業務 ● ふるさと納税に係る生産者や事業者の橋渡し業務 ● 地域商材開発・販路開拓に紐づく地域事業者支援 ● 情報発信業務

必要性等を考慮し、柔軟に業務を遂行

※募集時点の情報となります。内容については田村市様と協議の上変更になる場合がございます。

1. 移住・空き家問題推進業務

(1) 移住・定住者獲得推進施策の企画・遂行

田村市、Switch等と共に、田村市における移住・定住者獲得のための施策に取り組む。

(2) 移住希望者からの相談対応・移住前後の支援

テラス石森に設置された「移住相談室田村サポートセンター」の運営を担い、移住関心者・希望者の窓口として希望者をサポート。移住・定住ポータルサイト「たむら暮らし」を中心とした、電話・メール等問い合わせ対応～現地案内等、要望に応じたマッチング業務を行う。

(3) 関係人口創出、移住・定住に紐づく情報発信

地域プレーヤー、地域資源、活動、施策等の紹介を、移住・定住ポータルサイト「たむら暮らし」・SNSに随時掲載。効果的な時期に合わせた情報発信の他、ツアー、空き家の情報発信も担う。

(4) 空き家相談窓口の運営による移住希望者と所有者のマッチング

「田村空き家の窓口」の運営による以下の実施

- 空き家の情報収集・データ整理・物件情報の発信
- 希望者マッチング

 **関係人口、移住・定住者の獲得、空き家問題の解決に着手**

2.地域資源のブラッシュアップ・魅力化

(5) 豊かな地域資源を探求し、ふるさと納税に係る生産者や事業者の橋渡し

- 産業部・財政課・Switchが連携した田村市内の地域資源・商材を掘り起こす。
- ふるさと納税を活用した、生産者・事業者の事業活性につなげる。
- 生産者や事業者を地域プレイヤーとした移住メディアの効果的な情報発信。

(6) 地域産品のブラッシュアップや魅力発信

- 地域産品のブラッシュアップ
→必要に応じ有識者を加え、企画・デザイン・ブランディング・販路構築等を実施。
(株)Shift・猪苗代レイクリゾート小田嶋氏等を想定。
- 魅力発信
→移住ポータルサイトやSNS等を活用し、時期や目的を考慮した情報発信を行う。
産品のPR、ふるさと納税活性、田村市ファン・交流人口の獲得を目的とした情報発信とし、産業部・財政課との連携にて実施。

(7) 上記に掲げるもののほか、移住・定住促進及び地域振興につながる活動

- 事業を実施する上で必要・効果的と判断される事柄については随時実施。
→業務を遂行する中で生まれる繋がりや事柄等を、事業推進へ活かす。
- 先進的な取り組みの研修・連携。

➡ 田村市産品の強化・創出、ふるさと納税活性化、田村市ファン創出に着手

02 隊員詳細

02 隊員紹介／地域振興型

地域おこし協力隊 活動継続3名 | 任期終了4名 |

※2025年3月31日時点

令和7年3月
任期終了予定



中山 真波

着任／2020年5月18日～2025年
3月31日
前住所／東京都荒川区
主担当／地域商材の開発と販路
開拓

令和7年3月
任期終了予定



佐久間 朱妙

着任／2021年7月5日～2025年
3月31日
前住所／東京都港区
主担当：空き家対策

令和7年3月
任期終了予定



佐々木 馨

着任／2022年4月1日～2025年
3月31日
前住所／宮城県仙台市
主担当／空き家対策
・コミュニティ形成

令和7年3月
任期終了予定



岡寄 大治郎

着任／2022年4月1日～2025年
3月31日
前住所／神奈川県相模原市
主担当／関係人口創出・
移住定住促進・林業人材確保

令和7年3月
任期終了予定



熊谷 優希

着任／2022年8月25日～2025年
3月31日
着任前住所／東京都港区
主担当／関係人口創出
・移住定住促進

継続



伊藤 大介

着任／2023年3月1日～
着任前住所／神奈川県川崎市
主担当／関係人口創出・
移住定住促進・林業人材確保

新任



菅野 智教

着任／2023年4月1日～
着任前住所／宮城県仙台市
主担当／空き家対策
・コミュニティ形成

地域おこし協力隊 | 活動継続 4 名

※2025年3月31日時点

継続



宮之原 尚子

着任／2023年3月1日～
着任前住所／東京都品川区
起業内容／語学・飲食事業

継続



橋本 剛

着任／2023年4月20日～
着任前住所／埼玉県川口市
起業内容／キャンプ場

継続



本田 進之介

着任／2024年1月9日～
着任前住所／神奈川県横浜市
起業内容／サウナ・温浴施設

新任



新井田 美菜子

着任／2024年5月1日～
着任前住所／埼玉県加須市
起業内容／空き家を活用したシェアハウス、カフェ

03 隊員の活動状況

- ①地域振興型：地域商材の開発と販路開拓
中山 真波

（1）農産物活用の加工品（日本蜜蜂のハチミツ）生産・加工・販売

●日本蜜蜂「はちみつ」の企画・生産・加工・販売の実施

＜生産地＞ 船引町長外路

＜企画詳細＞ 所有した長外路城跡で生産体制を整備、はちみつの販売を実施

＜販売先＞

- ・ふるさと納税返礼品
- ・首都圏イベントにて販売
- ・首都圏飲食事業者にて使用
- ・ダンス世界大会での提供ドリンクで使用(東京会場)

＜今後の展開＞

- ・地域内外での対面販売等
- ・蜂箱のオーナー制
- ・巣箱作り体験

＜課題点＞

1. 蜜源植物の確保と管理

日本蜜蜂は特定の花を好むため、蜜源となる植物（例えばナツハゼ、アカシア、レンゲ、クローバーなど）の確保が必要。長外路城周辺の植生が多様であれば有利だが、季節ごとの開花バランスを考えた管理が必要。

2. 自然環境の影響

日本蜜蜂は環境変化に敏感で、異常気象（夏の猛暑、冬の厳寒）による巣箱内の温度管理が課題。

3. 周囲の理解と協力

蜂群を維持するための環境整備（農薬の影響回避、巣箱設置場所の確保）など、地域との調整が不可欠。

里山での養蜂は、生態系の回復と持続可能な地域づくりに貢献します。日本蜜蜂は多様な植物の受粉を助け、里山の生物多様性を維持する重要な役割を担います。農薬の影響が少ない環境で育つため、安全で高品質な蜂蜜の生産が可能となり。さらに、地域資源を活用した商品開発や観光との連携により、地域経済の活性化にもつながります。環境保全と産業振興を両立させ、里山の価値を次世代へと引き継ぐ取り組みとして大きな意義があり引き続き生産拡大に尽力していきます。



地域住民と首都圏在住者とのハチみつ採取作業

（２）農産物活用ナツハゼ生産、拡大の取り組み

●都路町の生産者からの引継ぎ

<生産地> 船引町長外路・都路町

<企画詳細> 所有した長外路城跡で生産体制を整備、30本の植樹を実施

<今後の展開>

これまで生産されていた、都路町の実産者から継承するかたちで、ナツハゼの生産拡大を行う。ジャム加工の他、その他加工品展開ができるよう、調査、試作、商品展開を行う

<課題点>

1. 継続的な収穫と品質管理

- ・安定供給の仕組みが必要。
- ・収穫後の鮮度保持や加工技術の確立が求められる。

2. 商品開発と市場開拓

- ・ナツハゼの認知度が低く、消費者に魅力を伝えるブランディングが課題。
- ・加工品（ジャム、飲料、発酵食品など）としての展開戦略が必要。

3. 資金調達と経営の安定化

- ・ナツハゼの収穫までに時間がかかるため、収益化までの資金確保が必要。
- ・補助金やクラウドファンディングなどの活用も視野に入れるべき。
- ・設備投資や運営資金の確保が課題。



ナツハゼの移植作業後の様子

福島県原発事故により影響を受けたナツハゼを復活させることは、地域の自然と文化の再生を象徴する取り組みです。ナツハゼは里山の生態系を支える貴重な植物であり、かつて都路町で栽培されていた歴史があります。その復活は、放射能被害からの回復を示す希望の象徴となり、地域の誇りや経済の再生にもつながります。環境再生型農業を通じて持続可能な未来を築き、福島の復興と新たな価値創造のモデルとなることを目指します。

(3) 6次化商品に向けた取り組み

●えごまを活用した「えごまたれ」の試作開発(2025.02月現在試作中)

<企画詳細>

地域資源の有効活用と農業振興

田村市はえごまの産地としてのポテンシャルを持っていますが、原料のまま出荷するだけでは付加価値が十分に高まりません。たれなどの加工品にすることで、えごまの消費を増やし、地域農業の振興につなげます

<開発協力先> 委託加工：こまや(白河市)

<効 果>

- ・健康志向の消費者や和食を好む人々にとって魅力的な商品となります。
- ・「田村市産のえごま」を活かしたブランドを確立することで、地域の特産品としての認知度を高める

田村市産のえごまでたれの6次化開発を進めることは、単なる商品開発にとどまらず、**地域資源の活用、ブランド価値向上、健康市場の開拓、地域経済の活性化、観光振興**といった多方面に貢献することに寄与します。

(4) 食からつながるコミュニティ創出

●田村市産農産物を活用した料理提供と交流会の実施

<企画詳細>

- ・自然体験を通じた、野外料理教室
- ・体験事業や移住者交流会等の料理提供
- ・首都圏イベント(食を囲んだ交流会の料理提供)

<効 果>

- ・子ども達をターゲットにした食育事業の創出
- ・田村市の農産物の周知と食せる機会の創出



田村市農産物を活用した食イベントは、田村市の魅力を「食べる・作る・学ぶ」体験を通じて伝え、継続的な関係性を生む効果的な手段です。単発のイベントではなく、**リピーターを増やし、最終的には田村市を訪問する流れを作る**ことがポイントになります。

（５）地域コンテンツ創出のための取り組み

●食・体験ができる拠点の整備

<場所> 船引町長外路城跡／2024年所有

<企画詳細> 2025年春開業予定

- ・古民家を活用した飲食・加工業の整備
- ・体験型農家民宿の整備
- ・自然体験・農業体験事業の整備

<コンセプト>

豊かな自然と文化中にある豊かさを大切に、共生する暮らしを広げます。出会ったつながりを循環させ次世代に繋げます。

<ターゲット>

- ・自然体験・農業体験・食育関心者
- ・日本の里山文化、伝統的な暮らしの体験などの関心者
- ・古民家活用関心者
- ・ワーケーション・リモートワーカー

<今後の展開>

- ・施設の整備と運営開始
- ・体験プログラムの拡充
- ・ワーケーション・リモートワークの環境の充実化
- ・コミュニティの形成と継続的な発展

<課題点>

①施設整備・資金確保（改修費・運営資金の調達）、②体験プログラムの魅力向上（独自性のある企画・リピーター獲得）、③集客・認知拡大（ターゲット層への効果的アプローチ・アクセス改善）、④地元との協力体制構築（住民・行政との連携、人的リソース確保）、⑤ワーケーション環境整備（快適な作業環境・滞在プラン設計）が課題。資金調達と地元との関係構築を優先し、持続可能な運営モデルを確立することが課題となります。

地域資源の活用と発信を通じて関係人口を創出し、地元経済の活性化、環境保全、教育・文化の継承を促進することで、持続可能な地域振興につながる新たな拠点となる様、事業展開を行います。



03 隊員の活動状況

②地域振興型：関係人口創出・移住定住促進
熊谷 優希

（1）現地体験ツアーと交流イベントを通じた関係人口構築業務

「加速化交付金事業」における関係人口の創出や地方への関心層の掘り起こしを目的とした、現地体験ツアー・交流イベントの企画・運営を行った。イベントを通じて参加者同士のつながり作り、関係人口構築を促進した。

現地体験ツアー 全3回開催

田村市民との交流を通して、田村市の魅力を感じてもらい、移住を検討してもらうためのツアーを企画・実施。開催までの告知・広告配信や関係各所の調整、当日の運営を行った。

●親子でふるさと体験 田植え&山遊びツアー

地方移住を検討している家族向けに、田村市の生活や子育てについて理解を深めてもらうために、地域住民との交流や田植え、山遊びを体験するツアーを実施。田村市の生活環境や地域性について理解を深めてもらえた。

●親子で移住体験 稲刈り&芋煮会ツアー

春と同様に、地方移住を検討している家族向けに、田村市の生活や子育てについて理解を深めてもらう体験ツアーを企画・実施。稲刈りや子育て施設の見学などを通して、田村市の子育て環境を感じてもらえた。

●地域体験と自己分析の旅

地域の住民と交流する機会や自分の理想の生活について考える時間を設けて、田村市への移住や2拠点生活を前向きに検討してもらうツアーを企画・実施。自然の豊かさ、田舎暮らし、そして地域住民の雰囲気を感じてもらい、満足度の高いツアーとなった。

東京での交流イベント 全4回開催

●田村市の食を楽しみながら田村市を知る会 タムラナイト

首都圏の移住検討者層・関心層に田村市に興味を持ってもらうと同時に、相談先を認知してもらうことを目的とした交流イベントを企画・実施。「テレワーク」「ワーケーション」をテーマにゲストを招き、田村市での暮らしや仕事についてトークしていただいた。

●福島県田村市を知る食交流イベント タムラナイト

上記と同様に移住検討者層・関心層向けに、交流イベントを企画・実施。第一次産業で活躍する地域プレーヤーをゲストに招き、活動ややりがいなどお話をいただいた。

●東京で体感する、福島の食と暮らし タムラナイト

前2回と同様に、移住検討者層・関心層向けに、交流イベントを企画・実施。地域活性化や集落支援に取り組む地域プレーヤーをゲストに招き、田村での暮らしの実態についてトークしてもらい、田村市についての理解を深めてもらえた。

●福島の暮らしと味覚を楽しむランチ会

首都圏の子育て世帯向けに、カジュアルなランチ会を企画・実施。市の移住事業担当者をゲストに招き、子育て・教育環境や行政手続きなどトークしてもらうことで、田村市での子育てについての理解を深めてもらえた。

(2) 現地交流イベントを通じた移住定住者サポート業務

移住者が気軽に相談したり、地域住民と交流する機会や場所が少ないことから、移住者を含めた市民同士が交流できるイベントを企画・運営。田村市の自然を楽しんだり、参加者同士の会話を楽しんだりするプログラムなどを組み込んだイベントを実施し、概ね好評だった。

●リノベーションワークショップ

開催日：令和6年10月26日（土） 10:00～16:00

●グリーンパーク都路で楽しもう！デイキャンプ&郷土料理

開催日：令和6年11月16日（土） 10:00～15:00

●移住者交流会 ～移住仲間と楽しくつながるカフェ～

開催日：令和7年2月15日（土） 10:00～12:00、17:00～19:00



(3) 首都圏での移住検討者向けイベント対応業務

地方移住関心者・検討者に対し、田村市の認知度向上と個別相談機会の提供を目的として外部イベントに出展。相談員として、田村市の生活環境や支援制度などの説明といった来場者対応を行った。東京のイベント参加者がブースに訪れたり、ブース来訪者が現地視察に至るケースもあった。

●ふくしま県中地域の移住大相談会

開催日：令和6年6月1日（土） 12:15～15:10

●福島暮らし&しごとフェア2024

開催日：令和5年11月9日（土） 11:00～17:00

●東北移住&つながり大相談会 2024

開催日：令和6年7月6日（土） 11:00～16:30

●GOOD LIFE フェア2024

開催日：令和5年10月25日（金）～27日（日）



（４）読書会(ホンノムシ)の実施、イベントへの出店

田村市民同士の交流の場を創出するために、月1回読書会を開催。
今年度も市内の学童クラブや預かり保育所で、子供向けの読書会も定期的に実施。
また郡山で定期的に行われていた「BOOK NIGHT MARKET」にも出店。
来年度も定期的に読書会を開催し、イベント等にも積極的に参加予定。

【概要】

- 開催日：毎月第2金曜日または土曜日
- 参加人数：5名程度
- 参加費：無料
- 場所：テラス石森 コワーキングスペース他
- 告知方法：チラシ配布、あぶくま大学Facebook・LINE・外部サイト



（５）交流会での地域おこし協力隊の活動報告

福島県内で開催された交流会などのイベントに参加し、ブースで地域おこし協力隊の活動内容について発表した。
出店者や来場者との意見交換や情報交換を行い、今後の活動に向けたつながり作りができた。

●地域の担い手 文化彩

- 開催日：令和6年10月30日(水) 11:00～16:00
- 場所：会津美里町役場本庁舎兼複合文化施設「じげんプラザ」

●県中地域づくり交流会

- 開催日：令和7年1月24日(金) 13:30～16:00
- 場所：AGCエレクトロニクス郡山カルチャーパーク



(6) ふくしまイノベーションプログラムへの参加

福島県、(株)東邦銀行、(株)野村総合研究所の連携による新事業創出支援事業「ふくしまイノベーションプログラム2024」に参加。

新事業の創出に意欲のある参加者とチームを組み、これまで地域に無かった面白いビジネスアイデアを創出し、事業構想のプレゼンテーションを行った。

プログラム終了後も、事業開始に向けチームと活動予定。

【概要】

- プログラム日程：令和6年8月～令和7年2月 全11回
- 場所：郡山市、福島市
- 対象者：
 - ・福島県内で起業・スタートアップ・第二創業を検討されている方
 - ・事業のイメージはあるが、どうやって形にしていけるかわからない方
 - ・事業パートナーとして起業家やスタートアップとの協業に関心のある方
 - ・新たな事業でふくしまを元気にしたいという意欲のある方、大学生の方 など



(7) 国際交流協会のイベント運営サポート

田村市国際交流協会の会員として、イベントの運営サポートやボランティア活動を積極的に行った。会員をはじめ、田村市在住の外国人の方達との交流を深めることができた。

来年度以降も市内外の国際交流活動に取り組む予定。

●日本語ボランティア養成講座 運営サポート

- 開催日：令和6年8月8日～9月19日
- 場所：田村市役所

●日本語教室 ボランティア参加

- 開催日：令和6年9月～12月 月2回
- 場所：船引公民館



03 隊員の活動状況

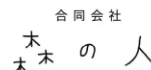
②地域振興型：関係人口創出・移住定住促進
岡寄 大治郎

(1) 市内林業事業体との関係性構築

前年度に引き続き、移住希望者の林業就業の円滑化と木工所の事例発掘を目的に、田村市内の林業事業体・木工所との関係構築を推進。求人情報のヒアリングや事業の説明等を行い、オンラインイベントやツアーのゲスト等、事業に関する理解と協力を得ることができた。

【関係構築をした市内林業事業体・木工所】

- ・ふくしま中央森林組合 都路事業所
- ・田村森林組合
- ・フォレストクリエイティブ合同会社
- ・きこり工作室
- ・Yurumaru工房
- ・合同会社 森の人
- ・株式会社 三浦農林
- ・ふくろう林業



(2) 個別・現地ツアーでのアテンド実施

移住・林業就業検討者を対象に林業事業体との関係構築のサポート、田村市内の案内を実施。個別対応では見学、現地ツアーでは各所との調整、当日のアテンド等を行った。

【体験ツアー概要】

- 開催日：7月13日(土)～15日(月)、11月2日(土)～3日(日)、11月16日(土)～17日(日)
- 参加者：合計17名
- 内容：田村・ふくしま中央森林組合見学、チェーンソー体験、重機体験、薪割り体験 等



【アテンド・サポート内容】

- 市内アテンドプランの作成、同行
- 受け入れ先との調整
- 市内林業事業体の紹介
- 市内案内 等

現地ツアーアテンド：計17名
個別アテンド件数：1件

(3) オンラインイベントを通じた林業就業検討者・関係人口の構築業務

加速化林業事業のオンラインイベントの企画・運営を担当。イベント当日は、司会進行の役割を担い参加者との接点を創出。イベント後も定期的なコンタクト、ヒアリング等を行い、相談しやすい体制をつくった。今年度は、前年度の反省を踏まえ、移動式のライブカメラを導入したオンライン上での実演やオーディオミキサーを活用した複数人ゲスト（過去最多のゲスト数）の実現等、マンネリ化しつつあるオンラインイベントの実施方法を開拓した。

令和6年度オンラインイベント参加人数一覧_林業人材獲得と木材加工サービスの創出事業

No.	月日	イベント名	ゲスト	申込者数	参加者数	参加率
1	5/31	福島県田村市のきこり（修行中）が語る『林業やってみてどうですか？』	浅香 純一氏、松尾 聡子氏（田村森林組合）	27	12	44.4%
2	6/28	福島県田村市のきこりが語る『林業講座：使う道具編』	桑原 直人氏（フォレストクリエイティブ合同会社）	47	19	40.4%
3	9/20	福島県田村市の木工職人が語る『田舎を求めて移住した話』	新井田 力氏（Yurumaru工房）	21	8	38.1%
4	12/6	福島県田村市のきこりが語る『林業移住者を見てみて』	菅野 孝専務理事（田村森林組合）	19	7	36.8%
5	1/31	福島県田村市のきこりが語る『たむらの先輩きこりサミット』	高橋 成紀氏（ふくろう林業） 伊藤 楓子氏（田村森林組合） 古瀬 希啓氏（田村森林組合） 永井 功令氏（田村森林組合）	29	13	44.8%
合計				143	59	40.9%



関係人口59人（延べ）の創出を実現。

(4) 首都圏イベントへの就林・移住相談窓口設置

首都圏在住の地方移住検討者に対し田村市の林業の認知やオンラインイベント等のご案内を行い、田村市に足を運ぶきっかけを提供するために、首都圏での移住に関するイベントで移住相談窓口を設置しその運営、当日受付を担当。田村市内の移住に関する情報や就林・林業事情等を話し、田村市の林業の関係人口創出を行った。

【実施イベント】

KITCHENCAR PARK-ABUKUMA うんめえFES in 中野 11月24日(日)開催

【実績数】

相談者数：16組（22名）



(5) ものづくりを拠点としたワークショップ、商品・サービスの実施

ものづくりを基点としたコミュニティの形成と企業や個人（マルシェ出店用）の看板等を作成した。
前年度のワークショップで地域に認知を獲得し、今年度は商品制作に力を入れ、個人から祭りなどの実施団体にまで受注を貰った。

【制作商品企画例】

- ・ 市内外の企業、個人、団体から受注した看板、オーナメントの制作物（他5件）



03 隊員の活動状況

②地域振興型：関係人口創出・移住定住促進
伊藤 大介

(1) 市内林業事業体との関係性構築

移住希望者の林業就業の円滑化と木工所の事例発掘を目的に、田村市内の林業事業体・木工所との関係構築を推進。求人情報のヒアリングや事業の説明等を行い、オンラインイベントやツアーのゲスト等、事業に関する理解と協力を得ることができた。

【関係構築をした林業事業体・木工所】

- ・田村森林組合
- ・ふくしま中央森林組合 都路事業所
- ・フォレストクリエイティブ合同会社
- ・Yurumaru工房
- ・きこり工作室
- ・合同会社 森の人
- ・株式会社 三浦農林
- ・ふくろう林業



(2) 個別・現地ツアーでのアテンド実施

移住・林業就業検討者を対象に林業事業体との関係構築のサポート、田村市内の案内を実施。個別対応では見学、現地ツアーでは各所との調整、当日のアテンド等を行った。

【体験ツアー概要】

- 開催日：令和6年7月13日(土)～15日(月)、11月2日(土)～3日(日)、11月16日(土)～17日(日)、令和7年1月11日(土)～13日(月)
- 参加者：合計23名
- 内容：田村・ふくしま中央森林組合見学、チェーンソー体験、重機体験、薪割り体験 等

【アテンド・サポート内容】

- 市内アテンドプランの作成、同行
- 受け入れ先との調整
- 市内林業事業体の紹介
- 市内案内 等



現地ツアーアテンド：計23名
個別アテンド件数：0件

(3) オンラインイベントを通じた林業就業検討者・関係人口の構築業務

加速化林業事業のオンラインイベントの運営を担当。イベント当日は、司会進行の役割を担い参加者との接点を創出。イベント後も定期的なコンタクト、ヒアリング等を行い、相談しやすい関係を築いた。

●オンラインイベント 全5回開催

No.	開催日	イベントタイトル	ゲスト	申込者数	参加者数	参加率
1	5/31	福島県田村市のきこり（修行中）に聞く！ 林業やってみてどうですか？	浅香 純一氏、松尾 聡子氏（田村森林組合）	27	12	44.4%
2	6/28	福島県田村市のきこりが語る。 「林業講座：使う道具編」	桑原 直人氏（フォレストクリエイティブ合同会社）	47	19	40.4%
3	9/20	福島県田村市の木工職人が語る。 「田舎を求めて移住した話」	新井田 力氏（Yurumaru工房）	21	8	38.1%
4	12/6	福島県田村市のきこりが語る。 「林業移住者を見てみて」	菅野 孝氏（田村森林組合）	19	7	36.8%
5	1/31	福島県田村市のきこりと語る。 「田村の先輩きこりサミット」	伊藤 楓子氏（田村森林組合） 永井 功令氏（田村森林組合） 古瀬 希音氏（田村森林組合） 高橋 成紀氏（ふくろう林業）	28	13	46.4%
合計				142	59	41.2%



→関係人口59人（延べ）の創出を実現。
活用可能なメーリングリスト12件を獲得。

(4) 首都圏イベントへの就林・移住相談窓口設置

首都圏在住の地方移住検討者に対して、田村市の林業の認知向上やオンラインイベントの案内を行い、実際に田村市へ向かうきっかけを提供するため、首都圏で開催された移住関連イベントに移住相談窓口を設置し、当日の受付を担当。

また、田村市内の移住情報や就林・林業の現状について説明し、田村市の林業に関わる関係人口の創出を図った。

No.	開催日	イベントタイトル	相談者(組)	相談者(名)
1	8/3	テーマから探す！移住フェア2024	8	8
2	9/8	マイナビ農林水産FEST	5	8
合計			13	16



(5) 林業現場の見学

加速化林業事業の推進に向けた情報収集および事業理解を深めるため、フォレストクリエイティブ合同会社の協力を得て、現場での視察を行った。現場では、作業内容や道具の扱い方、作業の雰囲気などを実際に見聞きし、具体的な業務の流れや技術を学ぶ機会となった。

- ・ 日時：令和6年10月2日(水)
- ・ 場所：二本松市
- ・ 作業内容：特殊伐採



(6) ものづくりへの挑戦、イベントの実施、地域の祭事への参加

地域資源を活用したものづくりへの挑戦として、専門の講師を招いて木工制作に取り組み、作品を制作。また、知見を広げるための視察を実施し、情報収集を行った。さらに、交流と健康促進を目的としたイベントを共同主催し、地域の祭典にも積極的に参加することで、地域の活性化に貢献した。

●ものづくり

- ・ 作品①：一輪挿し
- ・ 時期：令和6年4月
- ・ 場所：きこり工作室

●視察

- ・ 時期：令和6年12月15日(日)
- ・ 場所：たまき木工所
コミュニティ・カフェ
EMANON



- ・ 作品②：椅子
- ・ 時期：令和6年6月
～現在
- ・ 場所：きこり工作室

●イベント

- ・ テラスロゲイニングの実施
- ・ 時期：令和6年11月24日(日)
- ・ 場所：船引町

●地域の祭典

- ・ 船引栄町の盆踊り大会
- ・ 時期：令和6年7月21日(日)
- ・ 場所：船引町



03 隊員の活動状況

③地域振興型：空き家対策/コミュニティ形成
佐久間 朱妙

（１）空き店舗活用に向けた取組（チャレンジショップの運営）

市内での新たな事業展開や事業創出、既存事業の展開に向けた拠点としての「お試しチャレンジショップふらっと」の運営を行った。

●イベントの開催

- ・趣味や好きなことではじめての出店や事業スタートのきっかけづくり
- ・新規出店者を募るための利用促進イベントの開催
- ・参加者との交流と次回出店に向けての継続的な関係構築

●出店者の受入とサポート

- ・出店に関するチラシの設置やポスターの掲示、SNSによる出店告知
- ・不安や悩みの解消、出店や活動の全般サポート

●店舗との協力・連携

- ・(株)清水商店、周辺店舗への連絡調整
- ・出店情報の報告・連絡・相談。出店後の出店報告書の提出

●起業事業との連携

- ・観光型、起業型地域おこし協力隊への周知
- ・起業事業のイベントやツアー内での現場見学

●令和6年度出店に関する実績

- ・出店回数：計47回（前年度比：+30回）
 - ・出店日数：計85日（前年度比：+48日）
 - ・関係人口：延べ143人（前年度比：+90人）
- ※令和7年2月20日現在

（２）メディア掲載・情報発信業務

イベントや出店情報を発信し、チャレンジショップの認知度向上を図った。

●Webページの見直し・更新

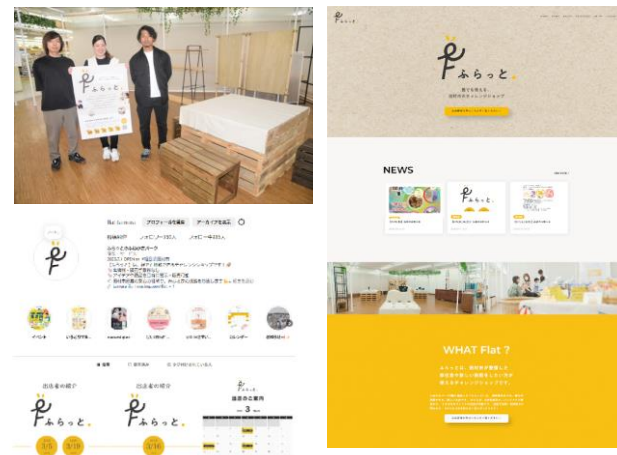
- ・昨年度の内容を見直し、必要時更新を実施
- ・毎月の出店情報を発信した

●Instagramの更新

- ・投稿回数：計54回
 - ・ページフォロワー数：計352人（前年度：230人、前年度比+122人）
- （令和5年7月1日運用開始、※令和7年2月20日現在）

●チラシ・ポスターの作成と市内配架

- ・出店者を募るための出店者募集ポスターの掲示とチラシの設置
- ・イベントのポスターは、市内の行政施設及び店舗等の計30か所に配布した



（3）チャレンジショップの認知度向上に向けた取組（出店者とのマッチング施策）

新規出店者を募り、自分の趣味や商品の威力を磨き上げ、チャレンジショップに出店するきっかけづくりを行った。また、昨年度に開催した同内容のイベント参加者でかつリピート出店者からサポーターを選定し、地域プレーヤーとしての活躍の場を提供した。

◆開催イベント

- ①「はじめての出店を考える『アイデア創出&魅力アップワークショップ』」
開催日：令和6年9月7日（土）13:00～16:30／参加者：9組11名
- ②「はじめてマルシェ」
開催日：令和7年1月25日（土）、26日（日）10:00～15:00／出店数：5団体

●新規出店者へのサポート

- ・利用希望者からの問い合わせへ対応
- ・初回面談、申請手続き、出店確定から出店当日までの継続的なサポート対応



（4）チャレンジショップの利用促進（リピート出店者への継続的サポート）

これまでの出店者からの要望が多かった「SNS活用」と「チラシ制作」についての初心者向け講座を開催した。これにより、チャレンジショップの認知向上と出店者のスキルアップを図り、出店者の継続的な利用促進を図った。

◆開催イベント

- 「スキルアップ講座（全2回）①SNS活用講座 ②デザイン講座（Canva）」
開催日：①令和6年10月5日（土）、②10月12日（土）13:00～16:30

●新規出店者・リピート出店者のスキルアップ

講座の中に、ワーク時間を設け、各グループにスタッフ一人を配置することで参加者が実践できること、気軽に質問や疑問を解消できる体制を整備し臨んだ。

●参加者同士の交流とコミュニティ形成

イベントの開催を通じて、参加者同士の交流の場となり出店への不安の解消や意欲向上につながった。



（７）田村市人材育成塾への参加及び自己事業に向けた活動

令和6年2月に卒業した「田村市産業人材育成塾」において、自身の事業構想を作成した。今年度の活動としては、事業化の一環として、昨年度から継続して業務委託を受け遂行している。看護師の資格を活かし、実際の現場においてカウンセリング業務を担うことで、地域の医療分野で働く人々が抱える問題や悩みを知り、地域住民の健康に寄与することを目指している。

●第9期「田村市人材育成塾」つながり聴講生としての参加

- ・目的：地域のリーダーや未来をけん引する産業人材を育む取組。自身の成長と事業化を促進するために、つながり聴講生として座学やメンタリングに参加した
- ・受講期間：令和6年9月～令和7年2月
- ・場所：田村市役所



●メンタルヘルスサポートの委託業務

- ・概要：田村市人材育成塾の繋がりで、有限会社みはる調剤薬局の代表 濱田雅博氏の協力で、社会福祉法人 田村福祉会が運営する特別養護老人ホームに勤務する職員様に対して、カウンセリング業務を実施
- ・業務期間：令和5年11月～現在
- ・場所：田村市内および三春町内の各施設



（８）地域コミュニティへの参加と自己研磨

様々な受講や資格取得を通して自己研磨を行った。資格や知識を活かし、イベント講師やチャレンジショップでの出店等を実施し、地域コミュニティへの参加や地域住民へ有益な情報を届けるよう活動した。

内容	時期	詳細
和ハーブフィールドマスター取得	令和6年4月～11月	一般社団法人和ハーブ協会による「日本の有用植物文化の継承と創生」を目的とし、和ハーブの幅広い基本知識を身につけ人々へ伝える。 ・令和7年1月25日（日）チャレンジショップ『はじめてマルシェ』出店
田村市文化協会船引支部文化団体のむら太極拳清風 所属	令和4年12月～現在	・令和6年6月30日（日）「秋の芸能祭り」出演（場所：田村市文化センター） ・太極拳3級試験合格（令和6年7月20日（金）付）
メンタルケア・スペシャリスト取得	令和6年6月～11月	内閣府認可 一般財団法人メンタルケア協会主催『メンタルケア・スペシャリスト養成講座』の基礎課程と実践課程を受講。対話を通して精神的支援を行う。
NPO法人蓮笑庵暮らしの学校講座「和ハーブのある暮らし」講師	令和6年11月29日（金）	東日本大震災後に立ち上がった特定非営利活動法人で、蓮笑庵を拠点に、持続可能な社会の一例となる新しい暮らし方を考えるためのワークショップや暮らしを豊かにするための文化活動（各種講座）を実施。



03 隊員の活動状況

③地域振興型：空き家対策/コミュニティ形成
佐々木 馨

(1) 空き家の情報収集業務

田村地域における空き家の掘り起こしを目的としたイベントの企画・運営を担う。

●田村市空き家活用セミナー（価格査定編）の開催

令和6年8月31日(土)15:00~16:30

田村会場/田村サポートセンター

オンライン/Zoom

講師：株式会社都市不動産鑑定 常務取締役 船山 克彦 氏

参加者：14名（田村会場：9名／オンライン：5名）

アンケート結果：75%が「満足」以上と回答



(2) 空き家所有者と利活用希望者の相談対応業務

空き家所有者と利活用希望者双方の相談対応及びマッチングサポートの実施。

●令和6年度新規相談対応件数：累計22件

【内訳】所有者相談：8件(売却8件、賃貸0件)

利活用希望：14件(購入12件、賃貸2件)

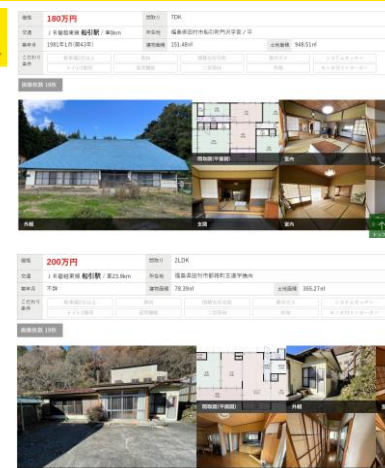
●空き家空き地現場調査件数:15件

所有者への空き家バンク登録の説明、現地調査の業務を担う。

●利活用希望者の現地アテンド対応：累計26件

利活用者への空き家バンク制度の説明、現地確認、物件状況説明の業務を担う。

●成約件数：累計4件



（3）地域コミュニティの形成を目的とするイベント開催

田村地域の子育て世代を対象とする親子参加型の自然体験イベントの企画・運営。

●自然体験イベント「もりのび」の企画・運営

- ・ イベント実施回数：全12回
実施場所：スカイパレス「時の輪」等
- ・ 放課後児童クラブ出張イベント：全13回
実施場所：田村市内の放課後児童クラブ実施場所
- ・ 両イベント延べ参加者数（子どものみ）：697名



03 隊員の活動状況

③空き家対策/コミュニティ形成
菅野 智教

(1) 空き家の情報収集業務

田村地域における空き家の掘り起こしを目的としたイベントの企画・運営を担う。

●田村市空き家活用セミナー（価格査定編）の開催

令和6年8月31日(土)15:00～16:30

田村会場/田村サポートセンター

オンライン/Zoom ウェビナー形式

株式会社都市不動産鑑定 常務取締役 船山 克彦 氏

参加者：（参加者：14名 [内訳] 田村会場：9名 オンライン：5名）

●購入できる空き家物件3つをご紹介！福島のオンライン空き家内見会

令和6年11月22日(金) 19:00～20:30

田村会場/田村サポートセンター

オンライン/Zoom ウェビナー形式

参加者：4名（申込数11名、当日キャンセル7名）



(2) 空き家所有者と利活用希望者の相談対応業務

空き家所有者と利活用希望者双方の相談対応及びマッチングサポートの実施。

●令和6年度相談対応件数：累計42件

【内訳】所有者相談：9件(売却7件、賃貸2件)

利活用希望：33件(購入31件、賃貸2件)

●空き家空き地情報バンク登録件数:11件

空き家バンク登録の説明、現地調査、報告書作成の一連の業務を担う。

●空き家ゲートウェイ登録件数:2件

登録手続きの説明、現地調査、報告書作成、YADOKARI社との連絡調整を担う。

●利活用希望者の現地アテンド対応：累計16件

●成約件数：累計8件



(3) 現地交流イベントを通じた移住定住者サポート業務

古民家DIYリノベーションワークショップを開催し、移住してDIYをやりたい方へ座学や実践を実施。また移住した方向けの交流会にて、都路の郷土料理を味わうイベントを実施。

●リノベーションワークショップ

開催日：令和6年10月26日（土） 10:00～16:00

●グリーンパーク都路で楽しもう！デイキャンプ&郷土料理

開催日：令和6年11月16日（土） 10:00～15:00

●移住者交流会 ～移住仲間と楽しくつながるカフェ～

開催日：令和7年2月15日（土） 10:00～12:00、17:00～19:00



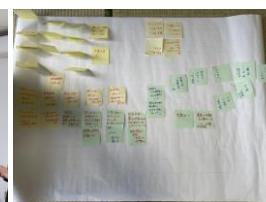
(4) チャレンジハウス都路オープンお披露目会

【目的】新たに運営開始されるチャレンジハウス都路を地域住民に広く周知し、理解を深めること。さらに、既に移住されているの方々も含め、地域住民が一堂に会し、地域の魅力や暮らしの可能性を共有し、相互理解を深めること。

また、移住検討者が実際に利用する際には地域住民の協力や理解が不可欠であるため、イベントを通じて地域コミュニティの結束を強化し、移住者が受け入れられる土壌を育むこと。

●チャレンジハウス都路オープンお披露目会

- ・日時：令和6年5月25日（土） 10:00～12:45
- ・会場：チャレンジハウス都路（旧岩井沢小学校教員住宅）
- ・参加者数：15名



(5) 大成建設ワークショップ参加

東部産業団地に入る大成建設の「学びあい、育み育てる場・人のつながり」を考えるワークショップに参加。

●地域の学び場・機会をマップ化しよう！

日時：令和6年5月31日(金)14:00～

場所：常葉公民館

●誰にどんな人へ育てて欲しいか？何に興味をもってほしい？

日時：令和6年6月28日(金) 14:00～

場所：スカイパレスときわ

●東部産業団地Aで学びたい・見たい・触れてみたいものは？

日時：令和6年7月26日(金) 14:00～

場所：常葉公民館



(6) ふくしまイノベーションプログラムへの参加

福島県、(株)東邦銀行、(株)野村総合研究所の連携による新事業創出支援事業「ふくしまイノベーションプログラム2024」に参加。

新事業の創出に意欲のある参加者とチームを組み、これまで地域に無かった面白いビジネスアイデアを創出し、事業構想のプレゼンテーションを行った。プログラム終了後も、事業開始に向けチームと活動予定。

【概要】

■プログラム日程：令和6年8月～令和7年2月 全11回

■場所：郡山市、福島市

■対象者：

- ・福島県内で起業・スタートアップ・第二創業を検討されている方
- ・事業のイメージはあるが、どうやって形にしていけるかわからない方
- ・事業パートナーとして起業家やスタートアップとの協業に関心のある方
- ・新たな事業でふくしまを元気にしたいという意欲のある方、大学生の方 など



03 隊員の活動状況

④起業型：語学、飲食事業
宮之原 尚子

(1) 出店

地域の人たちとの繋がり作りや認知拡大及び、飲食事業のテストマーケティングのため、市内のお祭りや都路町のよりあい処華さんにて出店。
 たくさんの方にコーヒーを喜んでいただいたり、ニカラグアのことを知っていただいたり、興味関心を持っていただくと共に、会話をする中で地域課題やニーズも発掘。
 現在、店舗開業に向けて活動中。

●よりあい処華にてコーヒー提供、10周年イベントのお手伝い

4月～7月、9月～11月の毎週水曜日にコーヒーやデザート販売。

●イベント出店「愛郷祭」、「みやこじ商工祭」、「星の村文化まつり」、「そば祭り」

ニカラグア産のコーヒーやコーヒー豆を販売

7月6日 愛郷祭、10月19日 みやこじ商工祭、10/26,27 星の村文化まつり、
 11月23,24日 そば祭りにて出店。



(2) キッカケ作り、ご縁繋ぎ

素敵な市内の事業者様や取り組みをもっとたくさんの方に知っていただいたり、必要とする人に届けることで、事業者様の事業拡大にも繋がったら嬉しいという思いから、イベント企画や事業者様と既存の取り組みとの橋渡し実施。

●イベント企画・出店

5月23日、キッチンカーPaddy Village Cafeの近藤さんとのコラボでラテアート・コーヒー教室×スペイン語イベントを実施し10名の方が参加。

よりあい処華さんでの出店時のデザートにがもう農園さんのいちごソースを使用。気に入ったお客様が後日、がもう農園さんが市役所での販売時にその旨をお話しご購入されたそうで、感謝のお言葉をいただいた。

●事業者様と既存の取り組みの橋渡し

近所に開業したCamp circleきずな様をキャンペク事務局とお繋ぎし、イベント実施に至ったり、地域の子どもの体験事業の場所として提案することで企画実施に繋がり、たくさんの方に知っていただく機会を創出。



(3) 教育現場での経験シェアや機会創出、講演

各所からお声がけいただき、市内外で経験や想いを語る機会をいただいたり、子どもたちに新たな経験をする機会を提供。

●学校での経験シェア、学童での体験イベント

7月9日 本宮第二中学校での国際理解学習における講演、11月1日 滝根中学校での「自分の未来、地域の未来を考える会」における講話、12月6日 船引高校のワークショップに参加。日本ジャンプロープ協会 福島支部の会長や理事の方々、滝根放課後児童クラブの先生方のご協力いただき、10月28日に滝根小の学童利用児童らにダブルダッチ体験会を実施。

●郡山100人カイギ登壇

全国の100以上の都市で行なわれている、地域で働く100人の話を起点に人の繋がりを生む企画である100人カイギで登壇の機会をいただき、現在の活動をしている想いや今後の構想について講演。



(4) 学びと創業準備

「いつからでも、どんな環境・境遇からでも、自分の意思で選択し、自分の未来を創造できる世界を作る」というビジョンを言語化したこと、ニカラグア帰省や地域の方々との関りで、自分の役割が明確になったことから方向性を明確にし舵を切った、気づきと変化の一年。また、様々な場に出ていき、繋がりを作ることで今後の事業を応援、支援して下さる方々や起業家の方々との出会い、繋がりを構築することで、創業に向けての行動が加速。

●MAKOTO WILL主催のワークショップ（クラファン、事業計画、補助金、SNS, Canva, Studio）

●理念策定

●マーケティング講座、ライティング講座

●ニカラグア帰省

●ボーダレスアカデミー16期

●福島銀行創業支援セミナー

●オンラインサロンやコミュニティへの参加

●ニーズや課題発見のためのヒアリング実施（約50人）等



本年度成果

語学・飲食事業

● 講演等実施回数／ 5回

本宮第二中学校、滝根中学校、船引高校、郡山100人カイギでの登壇、滝根学童イベント

● イベント等の出店5回、週1出店（4～7月、9～11月都路町よりあい処華様にて）

市内のお祭り等での出店による認知・関心の拡大、繋がり構築、ニカラグアのコーヒー、田村市産の農作物を使ったデザート等のテストマーケティング実施

● 事業立ち上げに向けた学び、ヒアリング（約50人）、繋がり構築、協力者の獲得

様々な学びの場に参加することで切磋琢磨する仲間、応援、協力してくださる起業家の方々と繋がりを得たことで、自分だけでは作れなかったビジネスプランやチャンス、自分だけでは到底たどり着けないような大きな可能性も見いだせた。

考察・今後の展開

● ニカラグアのコーヒーを軸とした人が集い、多文化や多世代がクロスする場づくり

様々な方と出会い、お話しすることで見えてきたニーズや地域課題、自分自身が地域の中に住んで感じる課題を少しでも解決に近づけたいという想い、また過去の経験からニカラグアに貢献したいという思いを形にするために、ニカラグアのコーヒーを軸として集い、多文化や多世代が関わることで八方よしを実現する拠点を作ると決意。自分の想いを語り、応援、協力してくださる方々のお力も借りながら夏のオープンを目指して活動中。

● 教育、環境分野への展開

ビジネスをやることは少なからず環境へ負荷がかかること、次世代の子どもたちへよりよい地球環境を残すこと、今後も美味しいコーヒーが生産され続けるには温暖化対策が必須であることから、企業としても個人としても、CO2削減や環境に配慮した取り組みが必須。そのため、事業を通して環境問題への個人の関りシロを作ることや、学校教育や地域活動としての取り組み、持続可能な地域経済のための環境事業も展開するべく、先進的な取り組みをしている企業様や地域の事例を学んだり視察をしながら、田村で実現できる形を模索中。この取り組みを通して、エシカルで持続可能なまちづくりにも繋がりたいと考えています。

03 隊員の活動状況

④起業型：キャンプ場開業事業
橋本 剛

（１）事業立ち上げに向けた拠点探し

景観を重要視し、居心地が良く癒されるリピートして頂ける持続可能なオートキャンプ場経営が出来る場所を探す

●キャンプ場開業に向けた、土地探しを実施

【条件】

- ・ 10000m前後（30サイトを目標）
- ・ 小川が流れる広葉樹の山林
- ・ 接道が整っている
- ・ 比較的緩やかな傾斜

【視察】 235ヶ所

都路町：岩井沢、古道

船引町：中山、南移、石沢、新館、大倉、長外路、北鹿又、石森、高森、横道、笹山、荒和田
成田、船引、春山、芦沢、堀越、門沢

常葉町：久保、西向、常葉、早稲川、新田作、堀田

大越町：早稲川、上大越、下大越、栗出、牧野

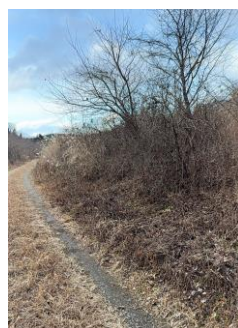
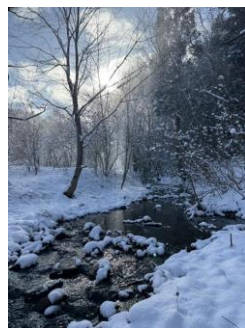
●候補地の選定

川内村上川内高田島…田村市より許可を頂き土地取得の交渉をするが、地権者の方が売却の意思が無く断念

船引町横道…広葉樹の山林で非常に景観が良いが携帯電波が一切入らず断念

船引町高森…アクセスが良くそれなりの景観だが敷地が狭くサイト数確保が出来ない為断念

都路町古道…小川があり景観が良い、携帯電波が悪くWi-Fi構築可能か確認中、地権者の方の売却の意向を確認中



●電波調べ

光回線導入可能かの現地立ち合い（フレッツ光）

Wi-Fi構築見積りの現地立ち合い（株式会社情報コネクト）

picocela、usen、buffalo Wi-Fi構築問い合わせ

●周辺キャンプ場調べ

インター、買物、浴場までのアクセス、入場料、施設利用料
利用時間、キャンセル料、セールスポイント計35ヶ所の施設の
一覧を作り、比較検討し開業するキャンプ場での利用料を考察

（２）事業関連の資格取得

●キャンプの知識を深める為の資格を取得

- ・ジャパンブッシュクラフトスクール ブッシュクラフトインストラクター資格取得（一泊二日×3回）

日時：令和6年5月11日～5月12日、5月25日～5月26日、6月15日～6月16日

ブッシュクラフトとは趣味として楽しむサバイバル技術

【講習内容】

- ・ロープワークの教え方の講習 ・ロープワークを応用したタープシェルター作りの教え方の講習 ・直火の講習
- ・ロープワークの講習 ・ナイフセーフティの教え方の講習 ・直火での調理実習 ・サバイバルの基礎知識の講習

講習を通じ自然の物を使い、自然と共存するような外遊びの楽しさを知る事が出来た。

キャンプ場開業後はWSを行い、アウトドアはもちろん非常時にも役立つこの技術と楽しさを広く伝えていきたい。



（３）講習、WSの参加

起業に必要なスキルを学ぶ為講習、WSに参加

●Canva講習

日時：令和6年6月4日、7月2日

バナーの作り方、デザインなどを学ぶ

●Studio講習

日時：令和6年7月8日、7月18日

HPの作成方法を学ぶ

●MAKOTO WILL資金調達WS

日時：令和6年10月3日

資金調達方法、事業計画書作成

●東部産業団地WS

日時：令和6年5月31日、6月28日、7月26日

大成ロテックの皆様と地域の方々が参加し、田村市内にこれまで存在してきた良い点や、これから必要とされるものについて意見を深掘りをした。企業と地域住民が協力し合い、より良い田村市を実現するための活発な話し合いが行われた。

●蓮笑庵くらしの学校和ハーブWS

日時：令和6年11月29日

食べ物としてはもちろん、薬としても古くから親しまれてきた和ハーブを学ぶ。

（４）コミュニティ創出事業にて講師として参加

●MEET@たむらDAYキャンプ婚活イベント

日時：令和6年8月24日

田村市主催：グリーンパーク都路

【会場レイアウト】【火起こし体験】【BBQセッティング】【モルック体験】を講師としてサポート。急な土砂降りの雨の為モルック大会は開催できなかったが、大雨にも適切に対応し参加者の皆様にも楽しんで頂いた。



●デイキャンプ&郷土料理移住者交流会

日時：令和6年11月16日

Switch主催：グリーンパーク都路

【火起こし体験】【タープの張り方講習】【ロープワーク講習】などを伝える講師として参加。

参加者の皆様楽しんで頂いた。

また、集落支援員の方々に振舞って頂いた美味しい郷土料理を囲み とても楽しい交流会となった。



（５）片曽根山森林公園キャンプ場利活用調査

●提案書の作成

片曽根山森林公園キャンプ場は好立地と充実した遊具を備え、非常に高いポテンシャルを持っていることに着目。田村市の交流人口に大きな増加を図る事が可能と考え施設を効果的に活用するための提案書を作成。視察の為にロッジに宿泊し現地での観察を通じて、強みをさらに伸ばし、弱点を改善する具体的な施策を考案し、利用者増加に向けた30ページの提案書を作成し農林課へ提出。

【内容】

- ・片曽根山森林公園キャンプ場の強みと弱みを明確に説明
- ・強みを活かしたターゲットの選定
- ・ターゲットに対しての最適なプロモーション戦略
- ・施設のソフト面、ハード面での改善提案



（６）仮設トイレ設備の視察

●サンランド栃木、世界一綺麗な仮設トイレと謳っているBSK社のトイレの視察

キャンプ場の開業にあたり、トイレは必要不可欠な設備。主トイレとして浄化槽を設置し、水洗トイレを新設する予定だが、広い敷地内のすべてを水洗トイレで整備するのは現実的に難しい状況。そのため、サブトイレとして仮設トイレの導入も検討中。

同社は関西圏を中心に実績があり、関東では栃木県にしか設置例がないため、サンランド栃木への視察を行う。この仮設トイレは非常に清潔で、不快感を全く感じさせない仕様であった。さらに、現地でキャンプをしていた他の利用者からも「とても快適」と高く評価されていた。

今回の視察を通じて、仮設トイレを導入する場合はこの製品を採用したいと強く感じる、非常に有益な視察となった。



（7）その他事業化に向けた活動

●ホップガーデンオートキャンプ場のコンサルタント、運営管理

令和6年4月1日よりグリーンパーク都路内ホップガーデンオートキャンプ場のコンサルタント、運営管理に着任。

・営業期間：令和6年4月1日～12月15日

・サイト数

オートサイト：10サイト(4500円)

フリーサイト：4サイト(4000円)

・提供サービス

レンタル用品、売店、炊事場、シャワー施設等

・利用時間

チェックイン：15:00

チェックアウト：10:00

アーリーチェックイン、レイトチェックアウト・1サイト1時間につき500円

アーリーチェックインは11:00より受付可能

【利用状況】

オートサイト：前年比15.4%減

フリーサイト：前年比47.7%増

増加の要因と推測

【広報活動の成果】

Instagramフォロワー数：前年比24.5%増（約160人増）

Googleクチコミ数：前年比100%増（13件増）

ポータルサイト「なっぷ」クチコミ数：前年比51%増（25件増）

【人材育成】

アルバイトスタッフへの接客、清掃に関する指導

【施設改善】

オートサイト

- 草刈りの徹底

- 芝生張替え後の維持管理強化（耐火ボードの作成）

- 不要なドローン設備の撤去

フリーサイト

- 草刈りの徹底

- 灰捨て場の新設

- 洗い場シンクの設置

【売上増加の施策】

・日曜、平日限定ソロキャンパー割引プランの導入

ソロキャンプ利用としては利用料金が高く、ソロキャンプ利用が著しく少なかった為11月より対象割引を導入

・クチコミ投稿でステッカープレゼント企画

オリジナルステッカーを作成しクチコミ投稿頂いたお客様に配布



本年度成果

キャンプ場開業の準備

●土地探し、候補地選定

- ・253ヶ所視察し、理想のキャンプ場用地を都路町でみつける、企画調整課を通じ地権者の方へ確認中。

●資格の取得

- ・ブッシュクラフトインストラクター資格取得。今後のキャンプ場開拓時のSNS発信にブッシュクラフトの技術を取り入れファンを作る。開業後はWSを行い集客につなげる。
- ・食品衛生責任者資格取得中。キャンプ場でのアイスやレトルト食品を販売するために取得。物販を充実させる事で集客につなげる。

●その他事業化に向けた活動

- ・ホップガーデンオートキャンプ場コンサルタント、運営・管理の全般んの受託
- ・実施内容【施設改善】洗い場の新設、草刈りの徹底【人材教育】アルバイトへの接客マナー、清掃の指導
- 【広報活動】SNSの発信 【売上増加の施策】平日ソロキャンパー割引プランの実施
- 【クチコミ増加の施策】クチコミ投稿でステッカーをプレゼント
- ＜前年比＞【稼働率】オートサイト14.7%減（50日間の芝張替え休業があった為）フリーサイト47.7%増
- 【広報】インスタフォロワー24.5%増【クチコミ数】「なっぷ」クチコミ51%増、Googleクチコミ100%増
- キャンプ場運営の流れを把握すると共に、施策を立て実施する事で利用者増加の手応えも実感した。
- 次年度も運営・管理を継続しつつ、キャンプ場開業の際にも培ったノウハウを活かし集客につなげていきたい。

考察・今後の展開

●キャンプ場用地を確定しキャンプ場建設に着手する

- ・土地の交渉が進めば令和8年3月までのオープンを目標とし、開拓に着手する

●特技、知識を活かし地域の発展に寄与する

- ・キャンプを通じて獲得した技術、知識を活かしコミュニティ創出事業や市内のアウトドア関連事業に積極的に参加する

03 隊員の活動状況

④起業型：サウナ・温浴事業
本田 進之介

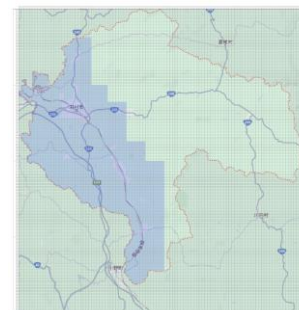
(1) 開業候補地の選定

① 市内を回り土地を評価

- ・条件に合った場所を航空写真・ストリートビューなどで選別して該当箇所の地図を印刷し訪問。
条件：ICから車で15分以内・幅がある道路に面している・なだらかな土地が広がっている、などアクセスが良いが手付かずの自然が残っている場所を理想の土地として探した。
- ・実際に現地に行って5段階で評価し所感をメモ
着任～春先までは都路を除くほぼ全ての場所を見て回り、開業に適した土地を探した。

② 評価が高かった土地を現地で詳細に調査

- ・5段階中4評価の土地9ヶ所(北鹿又・新館下・芦沢・堀越)を比較
- ・傾斜・方角・土地形状・広さ・植生・水はけなどを現地に踏み入り精査
- ・インフラやアクセスなどを考慮し、候補地を比較して交渉の優先順位を設定
- ・船引町芦沢地区の土地を第1候補地に決定



▲色付きの場所を訪問し土地を選別

(2) 第1候補地の取得に向けて

・芦沢地区の第1候補地の取得に向けて説明会などを実施

- ・芦沢出張所にて、出張所長・該当地区の区長・組長・商工会支部長様向けに事業説明会を実施し、どのようなものができるのか・どのように運営していくのかについて説明。
質疑応答も実施し、一定の理解を得ると共に多数の助言をいただいた
芦沢地区出身の市役所職員様向けにも同様の説明会を実施し、行政側視点の助言をいただいた
- ・希望取得区画の地権者様との面談
地権者2名様と土地の売買・活用方法について議論。
売買前に土地の整備を行うことについての許可を頂け、事業の第1歩として大きな前進を果たした。
来年度は取得区画の周囲の地権者様・地域住民様向けにも説明会を実施して地域全体の支持を得たい。
今後、トラブルなく長期にわたって事業を運営するためには、地域住民との信頼関係が欠かせない。
そのため、定期的に事業に関する最新情報や進捗を共有していき、良好な関係を築きたい。



▲芦沢出張所にて説明会を実施した

(3) 土地の開発・建築物の設計計画

・申請・許可関連

土地の整備や事業用の建物を建築するにあたり、事前に必要となる申請や許可について、各所へ積極的に相談を行った。具体的には、県中保健所・田村消防署・県中農林事務所・市役所の農林課・都市計画課・上下水道課・農業委員会などと連携を取り、必要な許可や手続きについて確認を行った。これにより、事業が順調に進行するための法的な基盤を確保し、各機関との連携を密にする予定。

・インフラ設備・施工・建築関連

設備業者や設計士との打ち合わせを実施し、実際に現地を見てもらいながら、開発および設計計画について詳細に議論した。これには、事業に必要なインフラ設備の導入や建物の設計に加え、利用者用道路や駐車場などの周辺施設の計画も含まれている。具体的には、交通の利便性や施設の使い勝手を考慮し、利用者が快適にアクセスできるような設計を進行中。設備や施工費用の見積もりも行い、全体の費用感を把握した上で予算の調整を進めることにより、事業が最適なコストで進行できるよう管理し、計画的に進めていける体制を整えている。

(4) 土地の整備

・草刈り

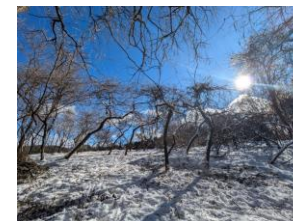
以前桑畑だったこの地域は、長年手入れされていなかったため、敷地内には背丈を超える草木が密集しており、視界が遮られてた。まずは、この草木の除去から作業を開始。草刈りを進めることで、敷地内の見通しが良くなり、作業しやすい環境を整備した。

・道の整備

敷地内に続く林道は、倒木や木々の枝葉で塞がれていて通行困難な状態だった。安全に通行できるように、これらの障害物を取り除き、道を整備した。この作業により、土地へのアクセスが改善され、今後の開発や整備が円滑に進むようになった。

・ツタ・倒木の処理

土地の一部では、ツタが木々を侵食し、病気の木や倒木が積み重なった。これらを適切に処理することが、土地の健全な再生に向けて必要だった。以前は歩くことも困難だった場所が、処理を進めることにより陽が差し込み、開放感のある見通しの良い森林に生まれ変わった。



←整備前 整備後→

(5) 融資・補助金の申請に向けて

・ 融資関連

来年度に日本政策金融公庫及び東邦銀行から融資を受けることを目指し、これまでの活動を整理して必要な資料を作成することに取り組んでいる。融資をスムーズに通過するためには、創業計画書や事業内容・成功根拠・営業戦略などを詳細に記載した提案資料を整備することが重要。そのため、収支計画書の作成も進め、金融機関への事前相談を通じて、融資の可能性を高めるための戦略を練った。また、よろず支援拠点からもアドバイスを受け、資料や年度計画の内容を修正し、事業が成功する可能性を強くアピールできるようにしている。

・ 補助金関連

来年度に補助金を申請し、事業が採択されるよう、活動を進めている。補助金を受けるためには、事業が地域活性化に貢献するものであることを示すことが重要。そのため、福島県および田村市の地域活性化に繋がる事業として認識してもらうために、事業計画を見直した。官民合同チームの支援を受けることで専門家からの助言を反映させ、より説得力のある計画に仕上げている。これにより、補助金の採択を目指して準備を整え、事業の成功へと繋げていく。

(6) 講習の受講・地域交流などその他の活動

・ 講習の受講

- ・ MAKOTO WILL主催のワークショップ
事業計画・補助金・クラファン・SNS・Canva・Studio
- ・ 福島銀行主催の創業支援セミナー
- ・ チェーンソー特別教育

・ 地域の人・企業との交流

- ・ 事業を地域社会に根ざしたものにするため、地域の人々や企業と積極的に交流を進めている。特に、蓮笑庵ぱくぱく茶屋・フォレストクリエイティブ合同会社といった地域の事業者と連携し、事業の進捗報告などを定期的に行っている。これにより、地域の方々との信頼関係を築くとともに、事業への理解と協力を深めてもらうことを目指す。また、起業予定地の周辺にお住まいの方々とも情報交換を行い、地元の声を取り入れた事業運営を目指している。さらに、地域活性化の一環として、地域の皆さんと一緒に取り組むことができる主催ワークショップやマルシェなどにも参加し、交流の場を提供している。今後も、地域との密接な連携を大切に、持続可能な地域活性化を進めていきたいと考えている。



▲ 林業会社の現場を見学

本年度成果

開業地の決定と整備・資金調達準備

●開業地 / 概ね決定

市内で条件に合った土地を評価し、5段階で現地調査を実施。評価が高い9ヶ所を比較し、芦沢地区を第1候補地に決定。地元住民や行政への説明会を実施し、理解と助言を得た。地権者と土地の売買・整備許可を取得し、地域住民との信頼関係を築くため今後も定期的な情報共有を行う予定。

●開業地の整備 / 概ね完了

長年手入れされていなかった敷地内の草木を刈り取り、見通しの良い環境を整備。倒木や枝葉で塞がれていた林道を整備し、安全に通行できるようにした。ツタや倒木を処理することで、歩きやすい開放的な森林環境が整い、土地が再生された。

●資金調達の準備

来年度の融資を目指し、創業計画書や収支計画書を作成し、金融機関への事前相談を進めている。補助金申請に向けて、地域活性化に貢献する事業計画を見直し、専門家の助言を取り入れて準備を整えている。これにより、事業の成功可能性を高めている。

考察・今後の展開

●資金の調達

融資申請に向けて、日本政策金融公庫や東邦銀行との面談を進め、必要書類の整備や事業計画書の提出準備を行っている。また、地域活性化に貢献する事業として補助金を申請し、採択されるよう協議も進め、専門家のアドバイスを反映させた計画を策定中。

●土地開発・インフラ設備の導入・建築

店舗オープンに向けて、敷地内の駐車場・利用者用道路・歩行路の整備を行い、安全でスムーズなアクセスができる環境を整える。また、必要なインフラ設備の導入として、電気・水道・上下水道の整備を進め、建築物の設計を進める。

●プレオープン

2025年内のオープンを目標に、プレオープン期間を設ける予定。この期間中に施設やサービスの最終調整を行い、実際の利用者からフィードバックを受け取る。プレオープンを通じて、地元住民との関係を深め、正式オープンに向けての認知度向上を図る。

03 隊員の活動状況

起業型/
自給自足できるシェアハウスとカフェを創る
新井田 美菜子

(1) シェアハウス開業の準備

活用されにくい空き家や耕作放棄地を魅力的な「暮らす場」にすることで、地域の活性化に繋げる。シェアハウスを中心に、コミュニティ運営の拠点となるカフェ、自給自足型農園の併設を目指す。

シェアハウス開業に向けた物件の視察

希望物件の情報をいただけるように働きかけ、自給自足がかなうサステナブルなシェアハウスの物件候補を視察。

●視察物件

希望条件：個別に3.4部屋が取れる古民家。自給自足できる畑や田んぼ、山林があるような土地。

→シェアハウス候補の物件田村市常葉町2件、船引町1件、都路町1件の物件を紹介いただき見学に至った。

●検討先と結果

物件①常葉町山根

山林、畑があり、建物も老朽化少なく優良物件だが、部屋数が少なく、プライバシー確率が難しい。

物件②常葉町常葉

商店街内にありアクセス、利便性良好、建物の老朽化、設備故障あり。所有者の関係で直近で稼働は難しい。

物件③都路町

里山の風景が美しく好立地。山小屋風の建物も良好だが、シェアハウスには不向きな間取り。カフェ兼農園で使用することを検討中。

物件④船引町

利便性抜群の物件。残置物が大量にあるものの、建物も設備も良好。理想の形ではないものの、スモールスタートとして検討中。

先進事例の視察&セミナー参加

●先進事例視察

檜葉町 kashiwaya

福島市 LaUnion

福島市 Vase

国見町 Co-Learning Spaceアカリ

いわき市 ワークキャンプビレッジ

宮城県丸森町 たねや

宮城県石巻市 はまぐり堂

宮城県鳴子町 エコラの家

●セミナー・講座

Shuju不動産シェアハウス拡大イベント

栗原ツーリズム農泊セミナー

kashiwaya アートクラフトクラブ

はまぐり堂フィールドワーク



(2) カフェ開業準備

地産地消を目指した持続可能なメニュー試作を既存の店舗やイベントでの試食提供をしながら、メニューやレシピ改良を行った。蕎麦と和菓子に絞りメニュー開発を進めている。

●よりあい処華にて試作メニュー提供

令和6年6月より、よりあい処華にて、毎週金曜日に試作メニュー提供開始。

●手打ちそば「ときわ会」、和菓子作り講座参加

全麺協名人より手打ちそばを、元老舗和菓職人より和菓子作りを学ぶ。

●食品衛生責任者取得

カフェ開業に向けた資格取得。

●イベント出展「都路灯まつり」

よりあい処華さんブースにて飲料の提供



(3) 自給自足型農園準備

シェアハウスに併設予定の自給自足型農園についての知識や協力者や土地情報を得るために、講習会やオンラインセミナーに参加。

●果樹講習会に参加

日時：令和6年7月4日,31日,9月10日,1月23日

内容：田村市役所農林課主催の果樹講習会に参加し、もも、りんご、ぶどうなどの育て方を学んだ。

●各種セミナー、講習会参加

丸森町竹林整備、大地の再生講座、おうちでパーマカルチャー、和ハーブ講座

●農地整備

令和6年11月より、自宅の庭を使って畑の土作りを開始。



(4) 地域コミュニティへの参加と繋がり構築・地域課題発掘

資格や経験を活かし、イベントや市民講座を実施し、地域コミュニティへの参加や地域住民へ有益な情報を届けるよう取組を行った。

●都路こども園ピザ作り体験手伝い

日時：令和6年8月28日

場所：よりあい処華

内容：子供たちの調理補助及びイベントの開催補助

●きゃんぱく「世界にたった1つのランタン作り」

日時：令和6年11月21日

場所：Yurumaru工房

内容：自宅木工工房での制作補助

●市民大学たまり シニアのお片づけ講座

日時：令和6年11月20日,12月18日,
令和7年1月15日,2月5日,19日

場所：船引公民館

内容：捨てるから始めないシニア向け片付け講座講師

●くらしの学校「和ハーブ講座」

日時：令和6年11月29日

場所：船引公民館

内容：和ハーブ講座企画、準備、当日スタッフ

●都路の森と暮らしのふれあい展

日時：令和6年11月29日-12月15日

場所：交流スペースハイリヤンセ

内容：地域で森と暮らしを守る活動をされている方の取材、記事作成。ハイリヤンセにて木工とともに企画展示

●船引高校探求活動ワークショップ

日時：令和6年11月22日

場所：船引高校

内容：高校生が地域の事業者との交流を通して自身の進路や将来について探求する活動にゲスト参加

●森の色えんぴつづくりワークショップ

日時：令和6年12月8日,15日

場所：交流スペースハイリヤンセ

内容：子供たちの手先の力を育てるきっかけとなるようなワークショップ開催

●くらしの学校「門松づくりワークショップ」

日時：令和6年12月10日

場所：船引町風文庫

内容：季節の手仕事をテーマに、地域で取れた竹や松などで門松作りを開催

●社会福祉協議会「隣隣サポーター」スキルアップセミナー

日時：令和6年2月9日

場所：田村市役所

内容：隣隣サポーターのスキルアップセミナーとして、片付け講座の講師として登壇



(5) 開業に向けた自己研磨・コミュニティ形成

今後の創業に向けての事業案や事業計画を作成するにあたって、より良い事業計画にするために創業塾やオンライン講座に参加。同じ志を持つ仲間との人脈作りやコミュニティ形成の機会にもなった。

●MAKOTOWILL主催のワークショップ

講座日時：令和6年6月4日,7月2日,8日,18日,10月3日,
内容：Canva,instagram,studio講座、資金調達WS

●ふくしま創生塾参加

講座日時：令和6年9月14日,21日,10月5日,19日,11月9日,12月7日,
令和7年1月11日,2月8日,3月1日
メンター日時：令和6年10月9日,11月6日,12月6日,令和7年1月8日,2月5日,17日
内容：事業内容や計画の研磨。福島の地域課題をリアルで視察しながら
より良い事業へとなるように探求、仲間作りなど開業における準備を行った。

●まちなかりノベ塾参加

講座日時：令和6年9月7日,28,10月6日,11月30日,12月14日
内容：県内外で活躍する講師陣から、創業のための基礎を学んだり、まちなかの視察や
イベント運営の体験などを通して、みんなで地域を盛り上げる手法を学んだ。

●SLC宮城「地域課題に向き合うチャレンジャー応援プログラム」参加

日時：令和6年9月19日,26日,11月12日,26日,12月12日,26日,
令和7年1月9日,30日,2月8日
内容：地域で活躍する先輩起業家の話を聞いて、メンター及び参加者同士の壁打ちを行い、自身の想いや解決を目指す社会課題の解像度を上げた。福島県外の先進事例や仲間とも出会う機会となった。

●ホープツーリズム・フィールドパートナー研修

日時：令和6年2月1日,4日
内容：関係人口創出のキーになる「復興」をより深く理解するために参加。
復興を教育の視点から携わる人々との出会いにより視野が広がった。



本年度成果

● シェアハウス、カフェ、自給自足農園開業の準備

- ・開業地としては4つの物件を視察、船引町と都路町の物件で検討中。平行して、カフェと自給自足農園の準備も進めた。

● 地域コミュニティへの参加と繋がり構築・地域課題発掘

- ・田村市の地域コミュニティへの参加を通して繋がり構築を試みた。地域性の理解や地域課題を発掘することで事業プランに活かした。

● 開業に向けた自己研磨・コミュニティ形成の促進

- ・創業に向けての事業案や事業計画を作成するにあたって、必要な知識の習得及びニーズ調査、世の中の動向など学び、視野を広げた。地域で活躍する先輩や、同じ志を持つ仲間との人脈作りやコミュニティ形成の機会になった。

考察・今後の展開

● 開業地の決定と事業の開始

- ・物件の選定を2025年度前半に目指し、秋頃からスモールスタートで事業を開始予定。

● 開業に向けた土地と物件の整備、改修

- ・物件取得後、必要な改修を地域や関係人口を巻き込んで行う。

● 地域プレイヤーとの協力体制の構築

- ・活用されにくい空き家や耕作放棄地を魅力的な「暮らす場」にするに当たって、さまざまな業務が発生するため、地域の住人や地域で活躍する方の理解や協力関係構築が非常に重要なポイントだと痛感。一人では成しえないことを地域の方と協力しながら進めていけるような繋がりを創る意識を持って準備を進める。